

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

大崎クールジェン株式会社

(2) 事業所の所在地

広島県豊田郡大崎上島町中野6208番地1

(3) 業種

工学研究所（7 1 1 2）

2 計画の期間

本計画の期間は、平成29（2017）年度を基準年度とし、令和5（2023）年度から令和6（2024）年度までの2年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況
《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成29年度 (2017)	令和6年度 (2024)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
エネルギー 起源CO ₂	131,246	38,394 70.7	85,056 35.2	100,480 23.4	22,951 82.5	111,392 15.1	69,102 47.3
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン	6	0 100	0 100.0	0 100.0	0 100.0	0 100.0	0 100.0
一酸化二窒素	231	67 71.0	59 74.5	103 55.4	12 94.8	157 32.0	192 16.8
その他 温室効果ガス	10	10 0.0	9 10.0	9 10.0	9 10.0	9 10.0	10 0.0
温室効果ガス 実排出量総計	131,493	38,471 70.7	85,124 35.3	100,592 23.5	22,972 82.5	111,558 15.2	69,304 47.2
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a) - (b)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》
原単位算定に用いた指標：

温室効果ガスの種類	基準年度 原単位(a)	目標年度 上段：原単位(b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成29年度 (2017)	令和 年度 ()	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							

温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費原 単位（原油換算 kl）	0.3323		0.5632	0.4972	0.7283	0.4196	0.6842
			-69.5	-49.6	-119.2	-26.3	-105.9
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = $((a) - (b)) / (a) \times 100$ 削減量の対基準年度比(e) = $((a) - (d)) / (a) \times 100$

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	電気使用量の低減	オフィス電気使用量削減	・会議室等の不使用場所の照明消灯 ・昼休憩中の執務室の照明消灯 ・退社時パソコン等の電源OFF ・クールビズ・ウォームビズを伴った適切な空調温度の設定
		所内動力削減	・設備の運転パラメータ最適化
2			
3			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	なし	
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	産業廃棄物の有効利用	有効利用率 90%以上	有効利用率の管理 毎月の社内への情報提供
2	環境保全活動の実地	実施率 100%	事業所周辺における海岸清掃の実施 (1回/年)

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。